

APRIN全体の活動報告

～CITI Japan プロジェクトからの事業移管と活動範囲の拡大～

浅島 誠

一般財団法人公正研究推進協会 理事長
東京理科大学 副学長



2018年3月6日
2017年度公正研究推進連絡会議

APRIN(エイプリン)とは

一般財団法人公正研究推進協会(APRIN, Association for the Promotion of Research Integrity)は、日本の研究者、その途上の方、研究支援を行う立場の方への研究倫理関連教材や勉強会の提供、研究機関の規範作り等へのコンサルテーションを通じて、科学の発展に伴うグローバルな研究倫理を啓発し、研究機関および各種学術団体の研究活動を積極的に支援することを目的として、わが国の生命医学系・理工系・文系等学術研究を代表する研究者達によって、2016年4月1日に設立されました。

〈報告内容〉

- eラーニング教材の作成・配信を通じた教育活動
現在の維持機関会員・登録者数、教材作成状況、新eラーニングシステムの運用開始、アンケート
- 教育研究機関等における個々の研究者倫理教育プログラムへの支援
教育研究機関・企業等からの要請に応じた講演・講師派遣、および研究者倫理教育プログラム構築への支援
- 講演会・連絡会議等の主催・協力
日本国内、または海外からの講演者を招いた、情報・意見交換の場の提供
- 領域に特化した分科会活動
4つの分科会による、領域に特化した研究倫理活動
- 海外との連携
関連機関訪問、国際会議への参加を通じた情報・意見交換と、日本への情報提供
- AMED支援「国際誌プロジェクト」との連携
新規領域の教材作成、年2回のブートキャンプ、医系国際誌調査と日本への情報提供『医学のあゆみ』

1. eラーニング教材の作成・配信を通じた教育活動(1)

(1) CITI Japan プロジェクト・NPO法人日米医学教育コンソーシアムからAPRINへの事業移管

- 2017年4月より、CITI Japan eラーニングの教材作成、配信事業を継承
- 有料化に伴い、利用機関数は減少したものの、登録者数は増加
⇒小規模機関の利用が減少する一方、大規模機関の利用が増加

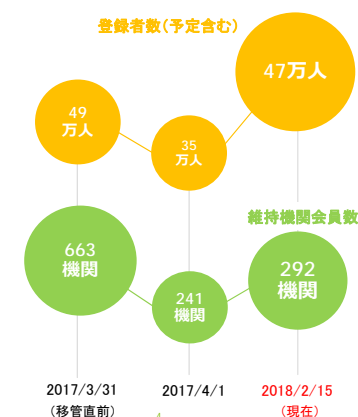
※CITI Japan プロジェクト:信州大学(代表校)、東京医科歯科大学、福島県立医科大学、北里大学、上智大学、沖縄科学技術大学院大学

(2) eラーニング教材の新規作成・改訂

- 社会科学・行動科学系教材の公開(2017年7月済み)
- 「改正個人情報保護法」施工に伴う、人を対象とした研究に関する教材の改訂(2017年12月済み)
- 人文系(英語版)教材の公開(2018年4月予定)
- 国際誌が求める再現性・客観性に関する教材の公開(ビデオ教材含む、2018年4月予定)
- 研究・技術開発の倫理に関する教材の公開(2018年夏予定)
- 中等教育における研究倫理の教材作成開始(公開時期検討中)
- 輸出管理教材作成中(公開時期検討中)

※詳細は、別添の教材一覧をご覧ください。

■維持機関会員数および登録者数の推移



1. eラーニング教材の作成・配信を通じた教育活動(2)

(3) 新eラーニングシステム「APRIN eラーニングプログラム」の運用開始

- ・ 使いやすさの向上、利用者拡大への対応、セキュリティ面の強化、拡張性の確保を目的とする
- ・ 利用機関の申請に応じ、現行システムからのデータ移行を実施中(2018年4月末、全機関移行完了予定)

(4) 成績管理者・受講者向けアンケートの分析および新仕様の検討・開発

- ・ CITI Japan プロジェクトで行った過去4回分の結果を分析、公開準備中
- ・ 常設アンケートフォームの開発
【受講者】eラーニングシステムで教材を受講後、修了証発行画面よりアンケートフォームへ移動、回答可
【成績管理者】成績管理者画面よりアンケートフォームへ移動、回答可

※詳細は、APRINウェブサイトをご覧ください。

5

2. 教育研究機関等における個々の研究者倫理教育プログラムへの支援

(1) 教育研究機関、学協会からの要請に応じて講演、または講師を紹介

2017年4月～2018年3月までの間、以下を含む約30回の要請に対応。また、事務レベルでも対応。

日時	主催者	担当	内容
2017年4月19日	国立研究開発法人森林総合研究所	野内玲 (APRIN主任研究員)	【講演】特定不正行為の防止について(研究者、研究補助者向け)
2017年5月31日	東北大学大学院工学研究科 応用物理学専攻	市川家國 (APRIN専務理事)	【講義】大学院科目「工学と生命の倫理」(学生向け) 研究倫理規範の歴史と最新の動向
2017年11月22日	国立研究開発法人理化学研究所	浅島誠 (APRIN理事長)	【講演】研究倫理の現状と課題—国内外の対応
2018年1月15日	千葉大学	APRIN事務局	【導入説明】新eラーニングシステム移行に伴う学内説明会

(2) 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)との連携による講演・講師派遣

JSTの研究公正推進事業「責任ある研究活動をめざして」の一環として実施された計4回の講習会に、APRIN主任研究員、委員会委員、理事等を派遣。

6

3. 講演会・連絡会議等の主催・協力および情報提供

【主催／海外連携】

研究公正の推進に関する講演会 (2017年11月21日、東京工業大学にて)

- ・ 元米国研究公正局(ORI: Office of Research Integrity)教育部門長のZoë Hammatt氏を迎え、「グローバルに研究公正を推進すること」と題して講演会を開催。
- ・ 国立研究開発法人・大学・企業等から、教員・事務職員等、様々な立ち場の方にご参加頂き、講演と併せ、意見交換会を実施。

2017年度公正研究推進連絡会議 (2018年3月6日、東京大学安田講堂にて)

- ・ 吉川弘之先生、P. Pearl O'Rourke氏 (Harvard 系大学院研究倫理審査委員会代表)、Ivan Oransky氏 (Retraction Watch 創始者)を迎え、日本の研究の成果とその発信力の向上に向けた取組方法を議論する。

【情報提供】

- ・ 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 研究公正推進室のご担当者を迎え、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく取組の徹底について」(事務連絡)についてご説明頂く機会をご提供。

【協力】

第3回研究倫理を語る会 (2018年2月10日、国立がん研究センター)

- ・ シンポジウム②「2つのインテグリティ～研究者とそのデータ～」において、APRIN委員会・分科会委員(研究不正審査標準化会議メンバー)が講演。

4. 領域に特化した分科会活動

医生命科学系分科会 ※海外連携

- (1) 研究不正審査標準化会議(旧事例検討会議)を開催し、研究不正審査における考課項目の議論を実施(複数回)
- (2) 2017年11月21日、元米国研究公正局(ORI)教育部門長のZoë Hammatt氏を迎え、意見交換会を実施
- (3) 2018年3月7日、Retraction Watch 創始者のIvan Oransky氏を迎え、研究不正審査標準化会議を実施予定

理工学系分科会

- (1) 2017年度(3教材の草稿作成): 技術倫理/技術開発におけるリスクマネジメント/情報技術に関する倫理
2018年度(1教材の草稿作成): 技術開発におけるデータ管理の倫理(仮)
- (2) 事例検討会実施準備

人文社会学系分科会

- (1) 人文社会学分野に特有と思われる点、研究不正・研究倫理に関する事例等を議論
- (2) 作成教材の検討

中等教育における研究倫理の教材作成分科会

- (1) 中等教育で研究を進める上での倫理のあり方に関する教材内容を検討。今後、教材の草稿を作成する予定

8

5. 海外との連携

CITI Japan eラーニングについて

Biomedical Research Alliance of New York (BRANY) のCITI Program部門との連携により、eラーニング教材配信中

国際会議等への出席

(1) WCRI (5th World Conference on Research Integrity)にて講演

“A large scale nation-wide survey indicates that the government policy is important for promoting research ethics education among future researchers.” (浅島理事長に代わり、札幌理事が講演)

(2) CHICAGO会議 “Research Integrity Investigation Reports: Peer Review Standards” (Retraction Watch/NCPRI 主催)に参加

米国の研究不正審査報告書のチェックリスト作成に協力

(3) Asia Pacific Research Integrity (APRI) Network Meeting 2018にて講演

市川理事が参加、Plenary 6: Good Practices for Social Responsibilitiesにて講演

6. AMED支援「国際誌プロジェクト」との連携

AMED支援「国際誌プロジェクト」とは

- 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の平成28年度「研究公正高度化モデル開発支援事業」採択課題の1つとして、信州大学および大阪市立大学で進める3年間(2016年～2018年)の事業。(研究開発代表者:市川家國、研究開発分担者:新谷歩)
- 研究の計画・施行・分析・発表に関わる研究者等が、代表的な国際誌が近年強く求める規定(再現性・客観性)を納得して記憶に留め、国際環境の中で臆することなく活躍できる術を身に着ける教育機会を提供することを目的とし、(1)eラーニング教材の作成、(2)年2回(東西)のブートキャンプ、(3)海外における情報収集および日本国内への情報展開を行う。
- APRINは連携機関として協力

10

6. AMED支援「国際誌プロジェクト」との連携(2)

海外における情報収集および日本国内への情報展開

(1) 訪問のきっかけ

世界ランキングにおいて日本の論文発表数が12位から25位へ転落 - 『New England Journal of Medicine (NEJM)』、『Lancet』、『JAMA』という臨床研究領域ではもっとも注目度の高い誌上の論文発表数を各国比較した世界ランキングにおいて、日本の論文発表数が従来の12位から25位へ転落したというデータに市川理事が接したことがきっかけとなり、インパクトファクターの最も高いNEJMを訪問して日本の臨床研究の国際的な地位を探り、改善点を見出したいとの思いを抱いた。

(2) 訪問先

- NEJM編集本部 編集長および副編集長と面会し、ジャーナル編集者会議等についての10ほどの質問項目に回答して頂いた他、当日に開催された編集者会議を傍聴。 → 資料「医学のあゆみ(別刷り)」参照
- Harvard大学関連病院の臨床研究審査委員会(HRC) 同じく20ほどの質問項目に回答して頂き、日本と米国の状況について意見交換を行った。 → 資料「医学のあゆみ(別刷り)」参照
- Retraction Watch どのような観点に立ち活動を行っているかお話を伺った。

※調査報告書として、医歯薬出版株式会社 出版の『医学のあゆみ』(262巻2号、3号)別刷りを配布いたします。

また、質問項目およびその回答については、APRINのウェブサイトの「活動報告」をご覧ください。

11

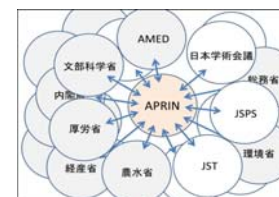
7. APRINの役割と他機関との連携



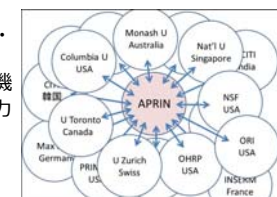
全研究領域を通じた教育内容の一貫性を追求するためのCommunicationの場の提供



理念・制度・教育間における一貫性確保のためのCommunicationの場の提供



制度設計・各種審査・教育プログラム等に関する行政庁・公的機関との継続性ある協力



世界各国間の行動規範に関する協調を推進するための積極的なCommunication活動

ご清聴ありがとうございました。

eラーニング利用、講師派遣、
その他、APRIN全般に関するお問い合わせは、
一般財団法人公正研究推進協会事務局(admin@aprin.or.jp)へ
お願いいたします。